

令和6年度第1回 高砂市廃棄物減量等推進審議会

議事録

開催日時	令和6年10月21日(月) 14:00～16:00
開催場所	エコクリーンピアはりま管理棟 4階大会議室
出席者	委員 (会長) 渡辺 信久 大阪工業大学工学部環境工学科 循環基盤工学研究室 教授 伊藤 和宏 兵庫県立大学大学院工学研究科 化学工学専攻 教授 田中 清之 高砂市連合自治会 監事 (副会長) 前田 弘子 高砂市連合婦人会 会長 中筋 弘子 高砂市消費者協会 副会長 大谷 隆志 高砂市ごみ減量等推進員連絡会 会長 沖 成一 高砂市商店連合会 会長 福本 昌浩 公募市民 吉田 耕三 公募市民 加藤 朋子 (兵庫県)東播磨県民局地域振興室 環境参事 事務局 高砂市生活環境部部長 谷井 寛 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 所長 藤井 繁弘 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 業務担当主幹 岸本 和彦 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 計画管理担当主幹 本田 孝幸 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 業務担当係長 田畑 由多加 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 施設担当係長 原 学 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま ごみ減量化担当係長 西埜 晶治
内 容	1 開 会 2 あいさつ 3 委員等紹介 4 諮問 5 議 題 (1)高砂市のごみ処理状況等について (2)(諮問事項)高砂市一般廃棄物処理基本計画について (3)その他 6 閉会
配付資料	・会議次第 ・高砂市廃棄物減量等推進審議会委員名簿 ・高砂市廃棄物減量等推進審議会出席者名簿 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律(抜粋) ・高砂市廃棄物減量等推進審議会条例 ・高砂市審議会等の会議の公開に関する指針 ・高砂市廃棄物減量等推進審議会スケジュール ・令和6年度 第1回高砂市廃棄物減量等推進審議会報告資料 ・高砂市一般廃棄物処理基本計画(素案)第1章から第5章 ・市民アンケート結果

議事の経過	
発 言 者	発言の要旨
	・開会 ・配布資料の確認 ・市長挨拶 ・会長挨拶 ・出席委員紹介 ・事務局職員紹介 ・諮問 ・審議会の公開 公開とした。(傍聴者なし) ・報告内容
会長	・高砂市のごみ処理状況等について事務局説明願います
事務局	【令和6年度 第1回高砂市廃棄物減量等推進審議会報告資料に基づき説明】
会長	・ありがとうございます。今の事務局からの説明について、ご意見・ご質問はございませんか。
委員A	・1日1人当たりのごみ排出量、加古川市だけが突出して少ない理由がありますか。
事務局	・加古川市の生活系ごみが特に少ない理由の一は、加古川市は粗大ごみについても有料化を行っていることが考えられます。
事務局	・補足になりますが、加古川市は、エコクリーンピアはりまの建設に伴うごみ減量化を図るために、様々なごみ減量化施策を展開され、それが先ほど説明した粗大ごみの有料化もあって、市民の皆さんのごみ減量化の意識が大きく影響した結果ではないかと考えています。
会長	・他に質問はありませんか。
委員A	・近年、全国での食品ロス発生量は減少しているようですが、高砂市はどのような状況ですか。
事務局	・高砂市単独の食品ロス発生量の数字は把握してないので、お答えすることはできません。
会長	・次の議事で2です。諮問事項の高砂市一般廃棄物処理基本計画について事務局より説明願います。
事務局	・【高砂市一般廃棄物処理基本計画（素案）第1章から第5章について説明】
会長	・ありがとうございます。ご意見・ご質問はございませんか。
会長	・ごみの分別について、カセットコンロのガスボンベはどうしていますか。
事務局	・カセットコンロのガスボンベは、ガスを抜いて空き缶類として分類して出していただくことで区分しています。
副会長	・外国人の方への対応について、分別収集の仕方について、英語版があればいいかと思います。
事務局	・外国人居住者への対応としまして、指定ごみ袋を導入する際に英語版とベトナム語版を作成しています。また、令和8年度からの予定になりますが、日本語版のごみの分け方、出し方に加えて、英語版とベトナム語版を作って周知に努めたいと考えています。
会長	・他に質問はありませんか。
委員B	・私の近所では、粗大ごみの収集日に、リサイクルができるごみがたくさん出ている。持ち帰って利用できたらいいと思うが、違反になると聞いています。
事務局	・ごみを出した方と持って帰る方の間で、トラブルに発展するおそれもあります。本市では、ごみの持ち去り禁止条例を制定しています。条例を制定した理由は、持ち去り業者が自転車とか多量に持ち去る行為を防止するために制定したのですが、基本的には、個人であっても持って帰れないということをご理解ください。

委員B 事務局	・ ご近所の方でもだめですか。
委員B 事務局	・ 近所の出した方と持って帰りたい方がしっかりした話合いといたしますか、ごみを出す前に同意があればと思います。
委員C	・ バザーなどの計画はありますか。
事務局	・ 今後、ごみの減量化を図る中で、粗大ごみを減らしていく必要があると考えており、まだ使える不要品をできるだけリユースに回していける方法について検討しています。市民の皆さんのリユース意識も高まるでしょうし、ごみの減量化にもつながるというところで、リユースできる不要品の可能性について調査を実施しています。その結果、例えば利用可能な木製の家具製品が排出されている状況もあり、リユース展示会等の開催などを検討しています。
会長 委員D	・ 先ほどのご発言は、市民アンケートのフリーマーケット、バザー等の機会の充実を言われていると思います。これは、現在、粗大ごみをリサイクルしている活動よりも、市民の方がもっと小さなものとかをバザーとかフリーマーケットなんかを使ってリユース、リサイクルさせることを望まれているというようなご発言なんじゃないかなと私は今受け取りました。ごみを直接持って帰るというのはちょっと法律的にいろいろ何かあるのかも分かりませんが、ちゃんとした場というか、やり取りができるような仕組みを今後時間をかけて考えてはかがかというようなご提案じゃないかなと思いました。
事務局	・ 計画の6章でのごみ減量化施策の部分になりますが、不要品のリユース機会の創出について計画に盛り込みたいと考えております。ちなみに令和6年12月に高砂環境フェアを開催しますが、「0円交換会」といって、不要品の物々交換イベントを予定しており、今後、そういった機会を増やしていけたらと考えています。
事務局 委員D	・ 他にご意見・質問はありませんか。
事務局 委員D	・ 資料の確認をさせてください。13、14ページのごみ処理の体制について、14ページの図では、燃やさないごみの埋立処分フローや最終処分の記載がありますが、13ページの図は、家庭系ごみと事業系ごみは、全てエコクリーンピアはりまに搬入された後、金属類と焼却残渣の流れのみの記載しかありません。13ページの図の中にも、埋立処分や最終処分の流れの記載が必要だと考えます。
事務局 会長	・ ご意見ありがとうございます。13ページの図に追記させていただきます。
委員E	・ 数字の確認をさせてください。4ページで、1日1人当たりごみ排出量が851グラムになっていますが、21ページでは842gと記載されています。次に33ページのごみの総排出量は804gですが、36ページの内訳の表4.3.1兵庫県内市町との比較では、803.5gという数字が出ています。また、36ページの表の内訳を加算すると微妙に合わないんですが、何か理由があるのでしょうか。
事務局	・ この箇所については、整理をして次回報告させていただきます。
委員E 会長	・ 情報量が多い資料であるため、少し数字を減らしたほうが、見やすくなるかもしれないですね。ただ、ごみ処理費用はすごく安くなったではないでしょうか。
事務局	・ ごみ処理費用の経費が、平成30年では1人当たり1万2,283円が平成4年は6,101円で、広域処理になったためにごみ処理費が大幅に減少したためと思いますが、市として計画どおりに進んだということでしょうか。
委員E 会長	・ この施設を建設するに当たって、2市2町全体のごみ量を削減する必要がある、それぞれ各市町のごみ減量の目標量を設定しました。その目標量に対して、2市2町が順調にごみを減らすことができまして、2市2町で広域的にごみ処理を行うことでごみ処理経費の大幅な削減につながっております。
	・ 計画どおりということですね。ありがとうございます。
	・ 13ページのごみ処理体制について、廃乾電池、ボタン電池、蛍光管などから水銀が再利用等とされていますが、水銀は再利用してはならないとなっていますので、回収するという表現にしていきたいと思います。また、ごみが増える要因としては空き家ごみが想定されます。空き家ごみについてはどう考えて

事務局	いますか。 ・空き家ごみについては、空き家の中にある粗大ごみとかについては、こちらに搬入をしていただくことはできますが、空き家を解体した廃材とかは建設廃材となり、基本的にはこの施設では受入れしないという方針を立てていますので、今の時点では受入れしない方向で考えています。
委員C	・高砂市のごみ処理施設では、熱回収による高効率ごみ発電をされていますので、ごみ減量化施策については、ポイントを絞って展開されることが良いのではないかと思います。例えば、48ページでは、燃やすごみのうち資源化可能な紙類の割合が23%であり、分別徹底を図ることが課題とされています。また、プラスチック類などはよく燃える燃料になりますので、個人的意見として、高砂市に限っては、紙類やプラスチック類は「エネルギーに変えます。」という方向性を示しても良いのではないかと思います。 ・また、ハンディタイプの扇風機とかの小型家電に内蔵されたリチウムイオン電池の発火問題もあることから、小型家電の排出方法やリサイクルなどに力点を置いて、そこをうまく交通整理し、どういうふうにしたら効率よく回収できるのか、リサイクルできるのかということに注力されたらどうでしょうか。 ・続いて、市民アンケート結果の中で、市の取組としてどんな施策が重要だと思いますかの設問に対し、スーパーとかの資源の店頭回収を実施してほしい、拡大してほしいというようなご意見が一番多かったので、今後の課題のところに加えていただいて、具体的にどうするかというようなことはこれから検討しようけれども、課題に挙げられてはどうでしょうか。
事務局	・ご意見ありがとうございます。紙類を含む資源物全体の話ですが、令和6年3月から導入した指定ごみ袋制度は、資源物の分別徹底によるごみ処理量の削減等を目的として導入しております。紙類については分別徹底を推進していきたいと考えておりますけれども、プラスチック類については、国の方針として分別回収・資源化していくことが求められており、処理経費等も含めて様々な側面を考慮しながら検討を進めていかざるを得ないと考えております。 ・次に、リチウムイオンとか小型家電のご意見ですが、市民アンケートのご意見で排出方法や排出場所を知らない方が多いという中で、周知徹底に努めていく必要があると考えております。次に店頭回収のご意見ですが、高砂市内においてスーパーが撤退してきている現状もあります。あと、発泡トレイ自体の回収を行っていない店舗もありますので、その対応を考えていく必要があると考えております。
事務局	・リチウムイオン電池の補足ですが、小さな電子製品の中にもリチウムイオンが組み込まれていて、外せないような製品がたくさん出てきています。ごみ処理施設での処理作業時等においては発火事象もあり、火災事故の危険性を少しでも減らすために、事業者と提携をしまして、リチウムイオン専用の拠点回収ボックスを公共施設に設置する取組みを準備しています。
委員A	・事務局の説明にありましたが、私も機械類をいっぱい使っているのので、処理の方法は分かっていますが、市民アンケートの結果を見て、あまりにも知らない方が多いというのが私の考えですけど、家電にしても小型家電にしてもメーカーの取扱説明書などでも不明瞭なものがいっぱいありますから、不明瞭な製品は極力選択しないように、消費者のほうも考えたほうが良いと思います。リチウムイオン専用の拠点回収ボックスの設置はすばらしい取組みだと思います。
事務局 会長	・ありがとうございます。 ・すいません、リチウムイオン電池の発火のことは知ってはいるのですが、高砂市だけでなく、全国的なリチウムイオン電池の回収の動きはあるのでしょうか。
事務局	・リチウムイオン電池を行政回収で行っている自治体は、現時点では少ないのではないかと認識しています。高砂市のごみ処理施設であるエコクリーンピアはりまでのごみ処理中に小型家電から煙が出た事例もあったことから、危険性を踏まえて率先した形でリチウムイオン電池の拠点回収を展開していくことになると考えています。

会長 事務局	・高砂市が先駆けてリチウムイオン電池を回収できるといいですね。 ・リチウムイオン電池の回収に先行して取組まれておられる自治体もありますけれども、近隣の自治体において回収されている事例は確認していません。
会長	・リチウムイオン電池だけじゃなくて、実は私が感心しているのは水銀体温計、血圧計ですね。年間に集まる水銀の量、小さい自治体でこんなにいっぱい集まるかと思うぐらいすごい量です。毎年２０キロぐらい集まっているでしょう。
委員Ｃ	・私もそう思いました。
会長	・すごい量ですね。そういう面ではとても先進的なとこだと思います。
会長	・他に質問・ご意見はありませんか。
全委員	・意見無し。
会長	・それでは、その他の議題について事務局説明願います。
事務局	・【今後のスケジュール、委員報酬について説明】
会長	・それでは、全ての議事を終了いたします。 ・生活環境部長あいさつ ・閉会